



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第2巻第4号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第2巻第4号). 泌尿器科紀要 1956, 2(4): 243-243

ISSUE DATE:

1956-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111126>

RIGHT:

最近経験せる2例の稀な陰茎淋巴管拡張症の症例を報告して之に若干の考察を加えた。本症は陰茎冠状溝に限局して硬く静脈瘤様に不正蛇行し僅に隆起す。何れも2回の穿刺に依り此の隆起は消失したが、穿刺液

の性状は末梢淋巴液の性状と同一であるので、恐らく機械的刺戟に依つて局所の淋巴管のみが閉塞し、それより末梢部の淋巴管が拡張して惹起されたものであらうと思われる。

編 集 後 記

北大皮科岩下教授の後任として同教室の三浦祐晶氏が就任せられた。



第7回中部連合地方会は来る11月3日京都大学にて開催の予定であり、詳細は追つて発表する。



本誌前号に巻頭文として綜説を掲載し、本号には市川教授の随想をかけた。之は肩の凝らない気楽な文章を以てし、今後も続けてゆくつもりである。



専門医制度が漸く問題となつて来た。今迄のところ主として医師会、学会及び厚生省の間で論議せられている様であるが、専門医を養成する主な機関は大学であり、又大学院制度との関係も重大であるから、文部省や大学医学部もこの問題に深い関係を有する事が考えられねばならぬ。

尚泌尿器科としては皮膚科との関連に於て問題がある。例えば泌科が独立している機関で修業した者は泌科だけの専門医になるが、泌科と皮科とが分離せずに一つの機関となつている所で修業した者は泌科と皮科の両方の専門医となるとするならば、不合理な点がある様に思われる。之らの事柄が慎重に検討せられる必要がある。

購 読 要 項

1. 発行は隔月（年6回）とする。
2. 会員は年間料金600円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要,1:110, 昭30. Lazarus, J. A.: J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行いが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部。